

製品名: RAI3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16866**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	40kDa

抗原情報

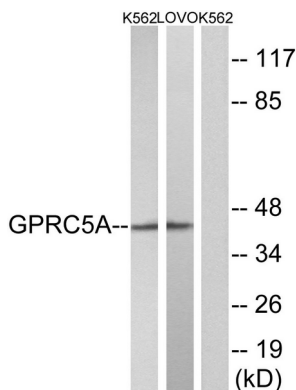
遺伝子名	GPRC5A
別名	GPRC5A; GPCR5A; RAI3; RAIG1; Retinoic acid-induced protein 3; G-protein coupled receptor family C group 5 member A; Orphan G-protein-coupling receptor PEIG-1; Retinoic acid-induced gene 1 protein; RAIG-1
遺伝子 ID	9052.0
SwissProt ID	Q8NFJ5
免疫原	抗血清はヒト GPRC5A 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 140-189

背景

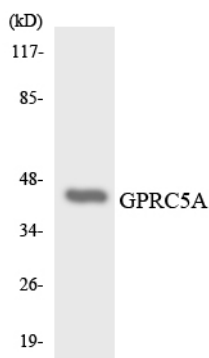
この遺伝子は、7つの膜貫通ドメインモチーフを特徴とするタイプ3 G タンパク質共役受容体ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、レチノイン酸と G タンパク質シグナル伝達経路の相互作用に関与している可能性があります。レチノイン酸は、発生、細胞増殖、分化において重要な役割を果たします。この遺伝子は、胚発生および上皮細胞の分化において役割を果たす可能性があります。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、機能：不明。この G タンパク質共役受容体は、上皮細胞の分化の調節と恒常性の維持に関与している可能性があります。胎児の肺および腎臓における発現レベルが成体組織と同等であることから、これらの臓器の胚発生および成熟において役割を果たしている可能性が示唆されます。このレチノイン酸誘導性 GPCR は、レチノイドと G タンパク質シグナル伝達経路との相互作用の可能性を示唆する。誘導：オールトランスレチノイン酸 (ATRA) による。類似性：G タンパク質共役受容体 3 ファミリーに属する。細胞内局在：細胞膜および核周縁小胞に局在する。組織特異性：胎児および成人の肺組織で高発現する。胎児の腎臓、成人の胎盤、腎臓、前立腺、精巣、卵巣、小腸、結腸、胃、脊髄では低～中程度の発現が恒常的に認められる。胎児の心臓、脳、肝臓、成人の心臓、脳、肝臓、骨格筋、膵臓、脾臓、胸腺、末梢白血球では検出されない。PubMed:10783259 によると、膵臓と心臓では低発現だが検出可能である。

研究分野

画像データ



GPRC5A 抗体を用いた K562 細胞および LOVO 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



GPRC5A 抗体を使用した K562 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。